

83歳で囲碁アマ五段

「100歳まで楽しみたい」

伊豆市の土屋健二さん



五段の免状を手にする土屋さん＝伊豆市内

伊豆市口向の土屋健二さん(83)は今夏、囲碁のアマチュア五段を取得した。退職後に囲碁の勉強を始め、68歳で1級を取得、その後15年かけて五段まで「到達」した。近隣の仲間には100歳を超えても趣味で囲碁を続ける人や、同年代で八段の腕を持つ人もいる。「挑戦することが好き。次の段への挑戦を続けたいし、100歳まで囲碁を楽しめたらいい」と意欲を新たにしている。

「伊豆木器」でプレカた。「囲碁は会社にいたツト事業を立ち上げ、専らときに基本を教わった」業務や特別顧問を歴任しと振り返る。退職後、市を続けたという。「詰碁」

シルバー人材センターの会員になり、妻昌子さん(82)に興味を持つように勧められて囲碁の勉強も始めた。葦山や函南などの囲碁会に通い、仲間と研さんした。

関西棋院の棋力認定に挑戦を始めた頃、同センターの理事長に就き、通算7年務めた。その間、二段取得まで8年ほど「足踏み」したが、退任

「何でも挑戦」仕事やスポーツ、野菜作り

の本で勉強を重ね、本年度の棋力認定試験では100点満点中、五段取得に必要な70点を上回る86点をとり、六段合格の90点まであと一歩だった。「何でも挑戦」と古希を前に半年の通信教育を経て庭園管理士の資格を取得。同センターで庭木の剪(せん)定の仕事に携わってきた。最近はその作業を控えつつも、草刈りなどの仕事を受ける。ゴルフ、グラウンドゴルフ、野菜作りに加え、毎朝1時間のウォーキングも欠かさない。「全てが生きがい。毎日が忙しい」と笑う。

コロナ禍で2年以上、中断している各地の囲碁会の活動再開を待ち望んでいて「競争心があるから仲間が勝つと嬉しい。早くコロナが落ち着いて、仲間とまた、ワイワイと囲碁ができるようになってほしい」と話した。

センターは11月8日午後3時から、三島長陵高で開設30周年記念講演会を開く。放送大学学長の岩永雅也さんが「ポストコロナの生涯学習―変わる形・変わらない思い」と題して語る。

問い合わせは同センター(電0555(9)89)1253へ。



三島信金 伊豆の国社協に
食品や飲料寄

三島信用金庫はこの同協議会を通じて、伊豆の国市社会福祉協議会に食品や飲料を寄贈した。同信金の山田豊和営業店支援取り組む部長が同市の葦山福祉

伊豆の
旧8月25日
日出 5:30
日 17:44
あす